

# SG ペガ500

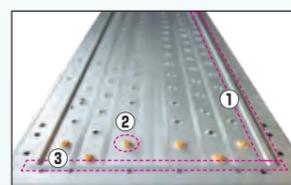
安全性と作業効率を向上。  
作業台のスタンダード。

アルミ合金製可搬式作業台「SGペガ500」は、安全性と機能性を両立した軽量アルミ合金製の作業台(足場)です。



## 製品特長

- 組立に工具が不要
- 作業による組み立て・折り畳みが可能
- 補助手摺(オプション)を装着可能
- 共通ブリッジ(オプション)で連結が可能
  - ※S、MSは妻側連結のみ
  - ※SGペガ500の連結に伴う組立・解体には「足場の組立て等特別教育」の受講が必要です
- 簡単に脱着できるSGキャスター(オプション)で連結したまま容易に移動可能



**踏み外し防止**  
① 踏み外し防止帯  
② 踏み外し防止ボタン  
③ 踏み外し防止突起線

**昇降面手がかり棒**  
安全な昇降をサポートする手がかり棒を昇降面に装備



**伸縮脚ロックレバー**  
目視可能なロック機能



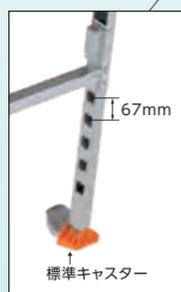
**ワイド脚座**  
作業時の安定性を向上(SとNLを除く)



**踏みさん**  
奥行55mmの踏みさん  
※S、MSは70mm  
ソリとリブによるすべり止め機能



**吊り下げ札**  
注意事項や組み立て方法を記載した吊り下げ札を本体に付属。



**伸縮脚**  
調整しやすい67mmピッチ

**標準キャスター**  
組み立て後に、設置位置の移動等に使用するキャスター(L、LL、SLL標準装備)

**感知バー**  
四方を囲うことで墜落を防止する感知バーを標準搭載  
※Sを除く  
※MS、Mは感知バー有無を選択可  
(詳細は次ページをご覧ください。)

## 感知バー(危険認知支援装置)

感知バーは作業エリアの4方を囲い、作業者の体に触れることで天板端部であることを認知させ、墜落を防止し、また視認性の高い配色で視覚的にも作業エリアを伝える危険認知支援装置です。

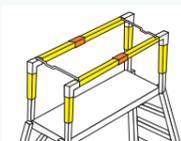
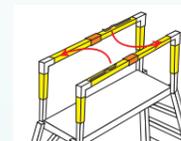
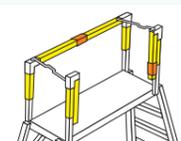
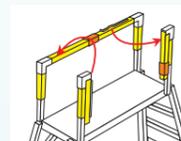
全面(4方)囲いに加え、  
壁面作業時の安全性と作業性を  
両立した3方囲いを実現。

※壁面作業以外では必ず4面の「感知バー」を設置してください。



— 3方囲い —

— 4方囲い —



金属の手摺は丈夫なため、人が寄りかかるとすぐに「転倒する力」に変わります。感知バーはしなる機構によって生じる時間が体勢を整え直す時間となり、墜落の危険を防止します。



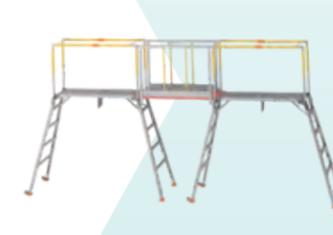
【体感実験：動的荷重試験】



【水平荷重試験：静的荷重試験】

## 拡張性

**線** 共通ブリッジ1枚使用



**面** 共通ブリッジ3枚使用



**ギャラクシーシステム**



(詳細は次ページをご覧ください。)

※SGペガ500の連結に伴う組立・解体には「足場の組立て等特別教育」の受講が必要になります。  
※S、MSタイプは線(妻側)連結のみ可能です。

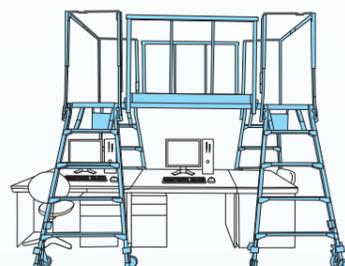


連結式作業床

ギャラクシーシステム

作業台同士を専用のブリッジで連結し、縦・横に連結させることでより自由な作業床を造り出すことができる連結式作業床です。組み立て・組みバラシが容易、且つとても軽量で扱い易く、資材の他、机や設備をまたいでの設置も可能で改修工事にも最適です。

- ※S、MSは妻側のみ連結可能です。
- ※ギャラクシーシステムの組立・解体には「足場の組立て等特別教育」の受講が必要になります。



作業効率のアップ

- 工具が不要
- 作業者自身による組み・バラシが可能
- 狭い通路やエレベーターでの搬入出が可能

安全性

- 感知バー、補助手摺で墜落や転落を防ぐ

拡張性

- ブリッジだけで、面(ステージ)組みが可能(従来はヨコブリッジが必要)
- 簡単に脱着できるSGキャスター(自在型)で全方向への移動が簡単

下の空間の有効活用

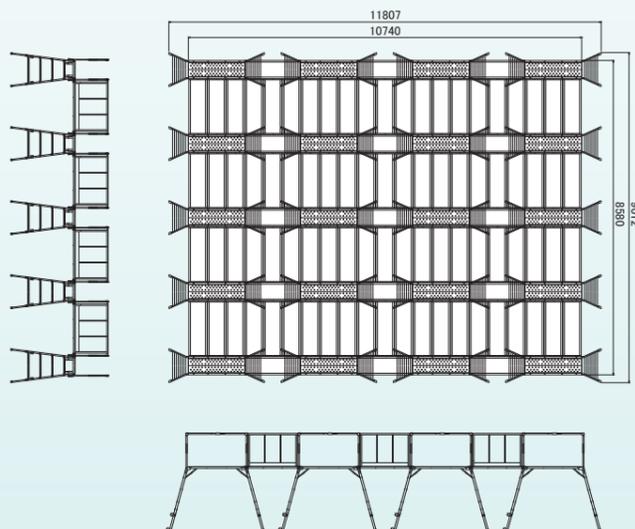
- 机や設備などを移動させずに作業でき、いながらにしての改修作業を実現
- 先行した資材を下に納めることで、工期を短縮

配置列 1種類の共通ブリッジで自由度の高い配列が可能

100㎡での構成内容

- 補助手摺 1500 : 14本
- SG ベガ500\* : 20台
- 共通ブリッジ 1500 : 99枚
- SG キャスター : 80ヶ
- 展開面積 : 約100㎡(92㎡)
- 4t車1台で輸送可能

\*M~LL(天板長さ1545mm)の場合  
※S、MSタイプは妻側のみ連結可能です。



構成パーツ



SG ベガ500



補助手摺 1500

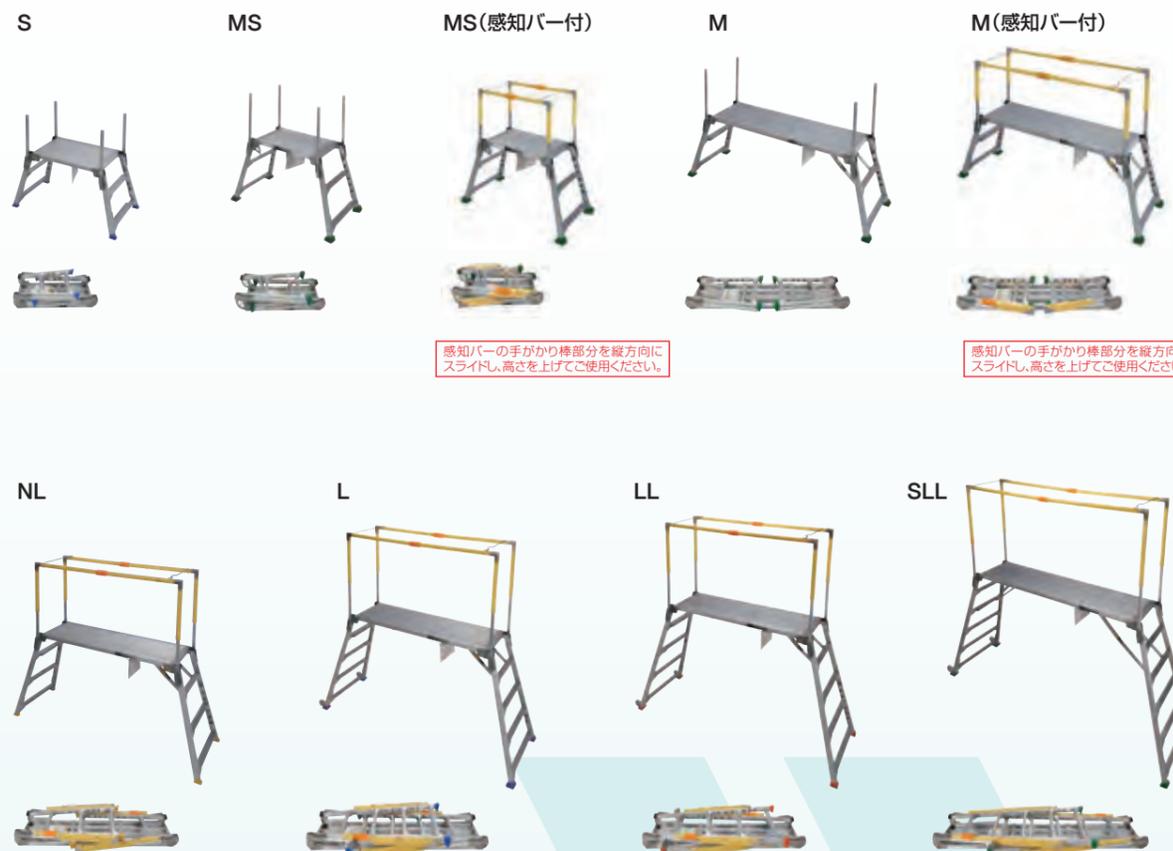


共通ブリッジ 1500



SG キャスター

ラインナップ



感知バーの手がかり棒部分を縦方向にスライドし、高さを上げてご使用ください。

感知バーの手がかり棒部分を縦方向にスライドし、高さを上げてご使用ください。

作業床寸法・本体仕様

タイプ	脚座色	天板幅(W)	天板長さ(L)	天板高さ(H)最小-最大	感知バー高さ	設置幅(W)最小-最大	設置長さ(L)最小-最大	伸縮高	伸縮脚ピッチ	重量	許容荷重
S	■	500mm	765mm	620-820mm	-	(642-693mm)	(1226-1333mm)	200mm	67mm×3段	14kg	150kg
MS	■	500mm	765mm	720-1050mm	-	(720-805mm)	(1282-1461mm)	330mm	67mm×5段	15kg	150kg
MS (感知バー付)	■	500mm	765mm	720-1050mm	700mm	(720-805mm)	(1282-1461mm)	330mm	67mm×5段	17kg	150kg
M	■	500mm	1545mm	720-1050mm	-	(720-805mm)	(2068-2243mm)	330mm	67mm×5段	19kg	150kg
M (感知バー付)	■	500mm	1545mm	720-1050mm	700mm	(720-805mm)	(2068-2243mm)	330mm	67mm×5段	23kg	150kg
NL	■	500mm	1545mm	1022-1422mm	800mm	(743-842mm)	(2229-2444mm)	400mm	67mm×6段	25kg	150kg
L	■	500mm	1545mm	1200-1600mm	920mm	(840-942mm)	(2317-2531mm)	400mm	67mm×6段	27kg	150kg
LL	■	500mm	1545mm	1350-1750mm	920mm	(878-980mm)	(2397-2607mm)	400mm	67mm×6段	28kg	150kg
SLL	■	500mm	2055mm	1510-1910mm	1050mm	(920-1023mm)	(2994-3208mm)	400mm	67mm×6段	32kg	150kg

使用上の注意 91 ページ

ご注文はこちらから >>> G.O.Pオンラインレンタル <https://www.online.gop.co.jp>



# SGペガ500の始業前点検

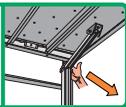
必ず安全確認をしてからご使用ください。

## ロック確認

手掛かり棒が確実にロックされているか？



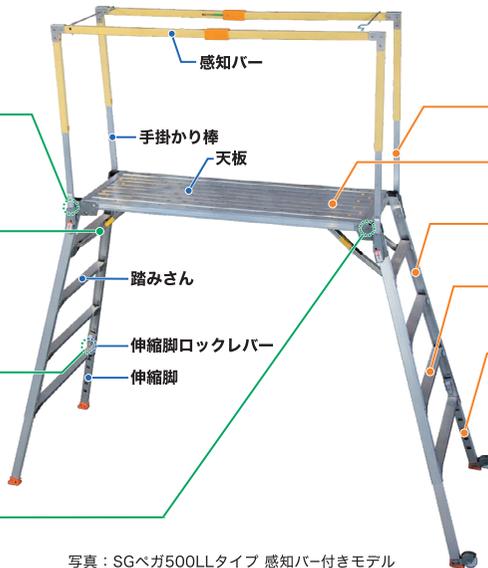
開き止めストッパーが掛かっているか？



伸縮脚ロックレバーが確実にロックされているか？



主脚の開閉ストッパーが確実にロックされているか？



写真：SGペガ500LLタイプ 感知バー付きモデル

## 異常の確認

手掛かり棒に曲がり・亀裂はないか？

天板に曲がり・亀裂はないか？

主脚に曲がり・亀裂はないか？

踏みさんに曲がり・亀裂はないか？

伸縮脚に曲がり・亀裂はないか？

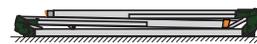
平らな場所に置いてガタつきがないか？



# 組立方法

1

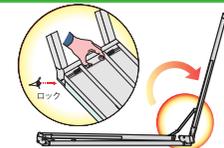
天板面を下（逆さ）にして置いて下さい。



2

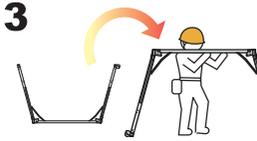
脚開閉ストッパーピンを解除し、主脚を（左右とも）開いて下さい。  
※ストッパーが確実にロックされているか確認して下さい。

<注>収納時は「先折側」から折り畳んで下さい。



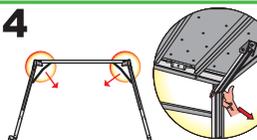
3

天板を持ち、本体を起こして下さい。



4

開き止めストッパー（4箇所）をセットして下さい。



5

左右の手掛かり棒をセットして組立完了。



6

高さ調整のときは、伸縮脚ロックのレバーを引いて左右の伸縮脚を引き出し、確実にロックされているか確認して下さい。

<注>収納時は逆手順となります。



## SGペガ500 禁止事項

<p>150kg</p>						
150kgを超えて載せない。	2人乗りはしない。	背を向けて降りない。飛び降りない。	荷物を持って昇降しない。	不安定な場所で使わない。	乗り出して作業しない。	天板の上に台を載せて使わない。

### 注意

塗料、接着剤、モルタル、発泡ウレタン等の付着は、全損請求となりますので、ご注意ください。

### 最大使用質量150kg

- 体重と積荷の合計質量が、最大使用質量を超えて使用しないこと。
- 同時に2人以上乗らないこと。

### 危険

- 設置するときや持ち運ぶときは、配電線に注意すること。
- 感電に注意すること。



### 警告

- ・作業台としての使用以外には使わないでください。
- ・天板面が水平になるように設置してください。
- ・安定しない場所や滑りやすい場所には設置しないでください。
- ・足元や周囲がはつきり見えない暗がりには設置しないでください。
- ・作業台を高くするために台や箱を使って設置しないでください。
- ・持ち運ぶときは、引きずったり、投げたり、乱暴に扱わないでください。
- ・固定機構部に、コンクリート等の付着が予想される作業に使用する場合には、あらかじめ該当部分の養生をしてください。
- ・使う前には各部に異常のないことを確認してください。
- ・変形した作業台を使わないでください。
- ・昇降には、手掛かり棒等を必ず使用してください。
- ・体重と積荷の合計質量が、最大使用質量を超えて使わないでください。
- ・同時に2人以上乗らないでください。
- ・手掛かり棒のロックピンが確実にロックされていることを確認してください。
- ・使うときは、両側の開き止め用ストッパーピン、及び脚調節装置を確実にロックしてください。
- ・作業台を背にして降りないでください。
- ・作業台から身体を乗り出して作業しないでください。

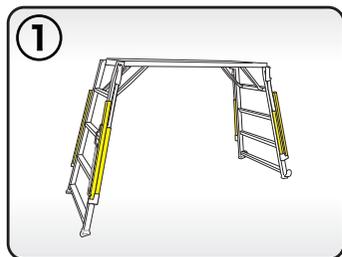
- ・踏みさん上では作業を行わないでください。
- ・作業中、壁を押したり引いたりしないでください。
- ・荷物を持って昇り降りしないでください。
- ・作業台の上で、脚立、架台、はしご等を使わないでください。
- ・天板の端で作業をしないでください。
- ・爪先立ちや片足で立たないでください。
- ・人を乗せたまま移動しないでください。
- ・天板の上に入や荷物を乗せたまま、伸縮脚の長さ調節をしないでください。
- ・天板での作業で上ばかりに気をとられて、足を踏み外さないように注意してください。
- ・補助手すり及び感知バーに体重などを過大にかけると、本体ごと転倒する恐れがあるので、壁つなぎ等の転倒防止処置をとってください。
- ・脚部を折り畳んだ状態で使わないでください。
- ・手掛かり棒は踏みさん昇降時の補助具です。用途以外には使用しないでください。
- ・感電に注意してください。
- ・改造しないでください。
- ・不使用時は伸縮脚を収納してください。
- ・地面から2m以上の作業床を使用する際は、外部に安全帯等を掛け使用してください。

# 「感知バー」の取り扱いについて

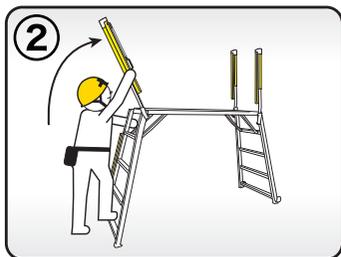
## SGペガ500感知バー付きモデルの場合

「感知バー」は、SGペガ500の手がかり棒に取り付けて使用する「転落防止のための危険を予知するバー」です。

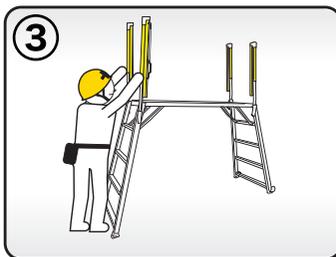
### 組立方法



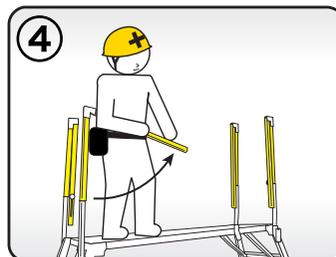
① SGペガ本体を組み立てます。



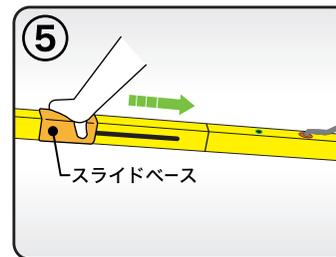
② 感知バー付き手掛かり棒4本を立ち上げます。



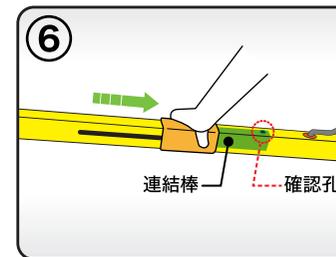
③ 手掛かり棒をつかみ天板に登ります。



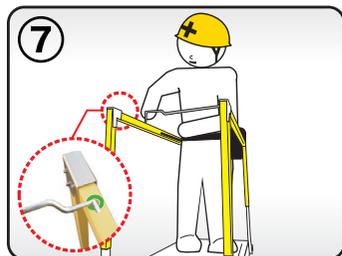
④ 本体感知バーを水平になるように起こします。



⑤ スライドベースを反対側にスライドします。



⑥ 確認孔で内側の連結棒(緑色)が最右端までスライドしていることを確認します。

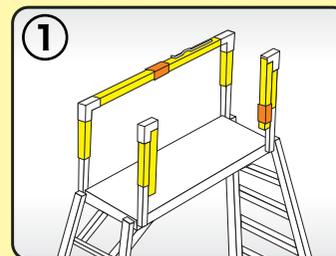


⑦ 昇降面感知バーを引き出し、逆側の穴に挿入します。

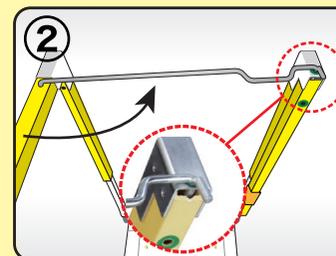


⑧ 組立完了。

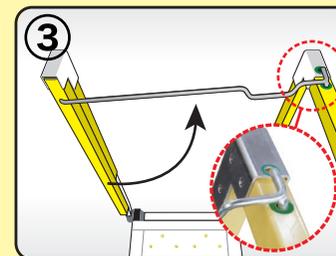
### ～壁面作業の場合～ 3面囲いの組立方法



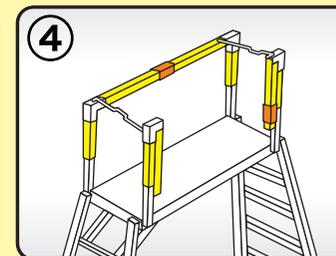
① 上記①～⑥の手順で片側の本体感知バーを組立てます。



② 組み立てた本体感知バー側の昇降面感知バーを開放側の金物上部の孔に差し込みます。



③ 開放側の昇降面感知バーを組み立てた本体感知バー上の孔に差し込みます。



④ 組立完了。

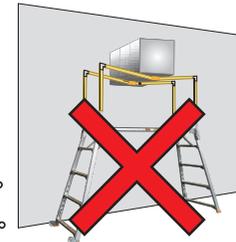
### 始業前点検事項

作業を始める前に必ず下記項目を点検し、異常がある場合は絶対に使用しないでください。

- 「本体感知バー」「昇降面感知バー」は、損傷していないか。
- 下記の各二箇所**のボルト締結部に緩み・外れ等の異常はないか。**
  - 「手掛かり棒」と「本体感知バー」
  - 「本体感知バー」と「昇降面感知バー」
  - 「鉛直部材」と「水平部材」
- 「連結棒」は、曲がったり折れたりしていないか。
- 「連結棒」が完全に「本体感知バー」に挿入され、**確実にロック**されているか。
- 連結棒の「スライドベース」に**破損・変形**等、異常がないか。

### 禁止事項 ㊦ 「感知バー」は手すりではありません

- 「感知バー」に寄りかかる等、**体をあずけない**でください。
- 「感知バー」から**身を乗り出さない**でください。
- 「感知バー」に**足をかけたり、乗ったりしない**でください。
- 「感知バー」に**安全帯をかけない**でください。
- 「感知バー」に**物を寄せかけたり、乗せたりしない**でください。
- 壁面作業以外では必ず**4面の「感知バー」を設置**してください。



現場名			
会社名		責任者	